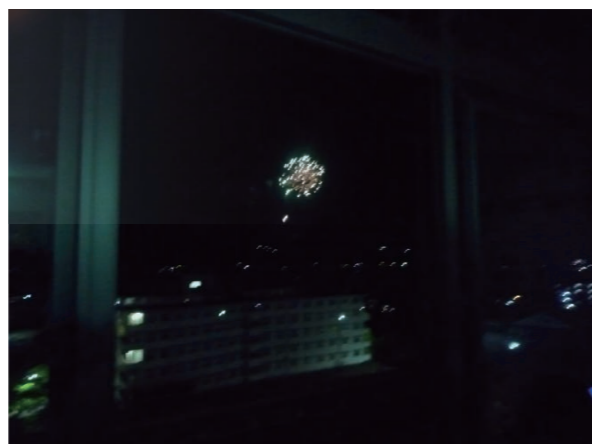


子どもの日「小児病棟のちょっといい話」

小児科 診療科長 山口 清次 やまぐち せいじ

2007年から毎年「子どもの日」に、近くの神戸川河川敷で打ち上げ花火があります。これは平田町の花火師の多々納恒宏さんが「5月連休には、子どもたちは家族連れで楽しむのに、自宅に帰れず大学病院入院中の子どもたちに、一時でもよいから子どもの日を楽しんでもらおう」と打ち上げてくださるものです。

今年も5月5日夜8時から約10分間打ち上げてくださり、入院中の子どもたちと家族、そして病棟スタッフがプレイルームから歓声を上げました。花火打ち上げが終わると、「ありがとう」と皆で声をそろえ、多々納さんに伝わるように窓から懐中電灯を振りました。「ちょっといい話」として、昨年8月に日本テレビの24時間テレビに取り上げられ、今回は5月11日朝のTBS「朝チャン」でキャスターの夏目三久さんが取り上げてくれました。多々納さんも「ここまで来たらやめられなくなりました」と笑って話してくださいました。



小児病棟プレイルームから花火を楽しむ

島大病院 ちょっと気になる健康講座 書籍を出版しました!



■ 販売価格/1,000円(税込み)

健康・病気の知識
手元でお手軽に!

1冊に
まとめた
読みやすくなる。

平成25年11月から毎週1回のペースで、「島大病院 ちょっと気になる健康講座」を開き、一般的な病気、療養の注意点と工夫、高度な治療法などを患者さんにわかりやすく説明しています。この健康講座が毎回好評を博していることから、約1年分の講座内容を1冊の本にまとめました。

この本では各領域の専門家が、「病気のはなし」「健康のはなし」「病院施設のはなし」の3つの内容について、簡潔にポイントを解説しています。今後も1年に1回のペースでシリーズ本として出版していく計画です。

この書籍の出版が、皆様の病気の理解や健康の維持に役立つこと、そして地域医療機関を始めとする皆様に当院の取り組みを広く知っていただく機会となることを期待しています。

問合せ先 総務課企画調査係 TEL 0853-20-2019



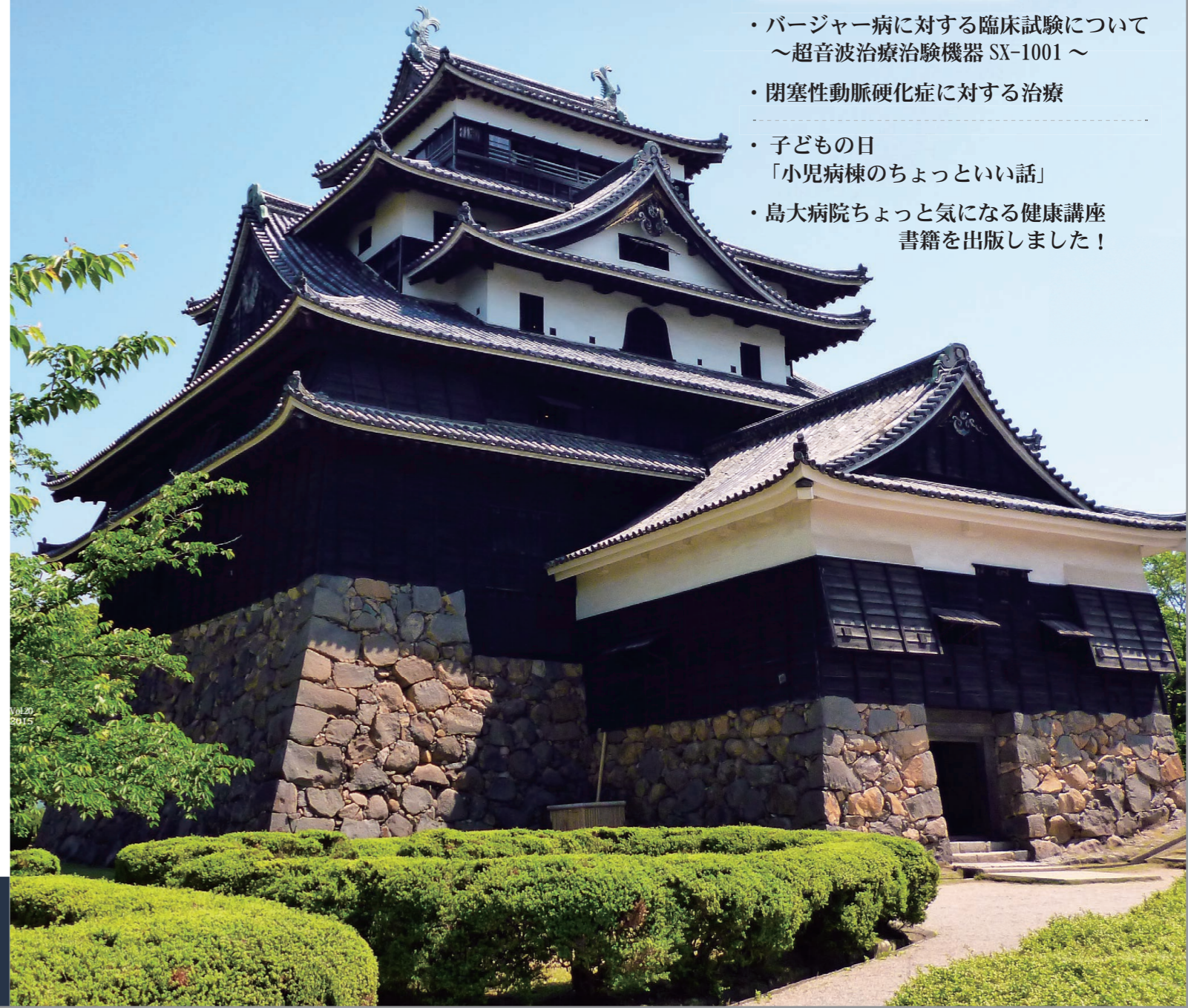
NEWS

CONTENTS

先進医療への取り組み

- ・バージャー病に対する臨床試験について
～超音波治療治験機器 SX-1001～
- ・閉塞性動脈硬化症に対する治療

- ・子どもの日
「小児病棟のちょっといい話」
- ・島大病院ちょっと気になる健康講座
書籍を出版しました!



心臓血管外科

外来 TEL 0853-20-2384
 医局 TEL 0853-20-2225
 FAX 0853-20-2222
 E-mail kyobuge@med.shimane-u.ac.jp

Access

バージャー病に対する臨床試験について
 ～超音波治療治験機器SX-1001～

心臓血管外科 助教 今井 けんすけ 健介

バージャー病 (TAO) は 20 ～ 30 歳代の主に男性にみられる手足の血管が末梢の方から閉塞する病気です。外科的治療 (バイパス等) の適応にはなりにくく、禁煙、投薬等が主で治療法は確立しておらず、指定難病となっています。この度、当科では TAO に対する超音波照射装置による治験を開始しました。この機器は血管新生因子の発現を増加させるとされている 2MHz、30mW/cm² への超音波を照射し、患部の血管新生を促すものです。1日に20分、24週間ご自宅で使用していただきます。先に行われた臨床研究でも有害事象はなく、有効性が示されました。今回 Fontain Ⅲ (安静時痛)、Ⅳ (潰瘍) の患者さんを対象に治験を行います (Ⅲの患者さんはダミー器を用いた2重盲検法)。治験なので患者さんの費用負担はありません。治験対象の患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介お願いいたします。



選択基準

- ① 20 歳以上 65 歳未満
- ② 禁煙成功者
- ③ 24 週間 (月 1 回) 外来通院可能
- ④ 同意取得時に既存治療で症状が改善しないまたは安定

除外基準

- ① 血行再建術 (バイパス、カテーテル) の可能性がある
- ② 悪性腫瘍の既往
- ③ 同意取得の 3 か月以内に心筋梗塞、脳卒中の既往

上記に関しましては受診後、採血、CT 等でスクリーニングを行います。

問合せ先 心臓血管外科外来 TEL 0853-20-2384



超音波照射前 TAO



超音波照射 12週目 TAO



超音波照射 24週目 TAO

Access

放射線科

外来 TEL 0853-20-2392
 医局 TEL 0853-20-2289
 FAX 0853-20-2285

閉塞性動脈硬化症に対する治療

放射線科 診療科長 北垣 きたかき はじめ 一
 助教 中村 なかむら ともりのり 友則

閉塞性動脈硬化症では動脈硬化により骨盤・下肢動脈が狭窄・閉塞するために、歩行時痛 (一定距離歩行後に休む間歇性跛行)、安静時疼痛、皮膚潰瘍と進行していきます。80 歳代の高齢者だけでなく、近年は 60 歳代にも発症します。本邦の罹患者数は 200 ～ 300 万人と考えられています。心筋梗塞・狭心症・脳梗塞などの重篤な疾患を合併しやすいことが知られています。

診断に最も重要な検査は上腕 - 下腿血圧比 (ABI) です。当院では ABI 陽性 (1.1 以上) 症例に超音波・CT・MRI (MRA) を実施し正確な病期診断を行っています。

本疾患の危険因子には喫煙や糖尿病・慢性腎不全 (人工透析)・高血圧・高脂血症があり、これらのコントロールが必須です。さらに運動療法や薬物治療 (抗血小板剤、高脂血症治療薬) で症状の改善しない場合は血管内治療や外科手術 (バイパス術) など侵襲的な治療をします。

当科ではこの血管内治療に力を入れています。血管内治療は大腿動脈、上腕動脈からカテーテル挿入・治療するので身体的負担が小さくて済みます。狭窄または閉塞した動脈をバルーンや金属ステントで拡張・再開通させることで症状を消失・減弱させることができます。当院では血管内治療専門医が担当し、高度な装置である IVR-CT (血管撮影装置と CT が一体化) と血管内超音波を用いることで高いレベルの治療を行っています。また、他の診療科とも密接な連携をとっています。

問合せ先 放射線科外来 TEL 0853-20-2392



左総腸骨動脈の5cmに及び閉塞の開通後の血管造影写真



島大病院ニュース
2015年6月

お知らせ

「神在りの国 メディカルカフェ」のご案内



呼吸器・化学療法内科 診療科長 いそべ たけし
磯部 威

がん哲学外来は、島根県出身で、現在は順天堂大学医学部教授の樋野興夫先生が医療現場と患者さんの間にある「隙間」を埋めるべく始められた新しい患者さん(ご家族)と医療従事者の交流です。がんの告知を受けた患者さん(ご家族)はその時から死と向き合うことになり、多くの精神心理的な悩みを抱えることになります。一方で医療従事者は病状や治療の説明を全力かつ十分に行いますが、患者さん(ご家族)の悩みをゆっくり「傾聴」する時間がありません。ゆっくり話をするには「お茶でも飲みながら」が理想です。そこで当院では、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」により、今年の4月から病院1階の患者相談室を「神在りの国:メディカルカフェ」としてオープンしました。がん患者さんが集う「がんサロン」や「ピアサポーターによる支援」も非常に重要です。一方、メディカルカフェは、「主治医ではない抗がん剤とがんの専門医」がカフェに居る点が違いとなります。外来診療ではありませんので医療費は無料でお茶代だけお願いします。具体的には、抗がん剤治療中、あるいはこれから抗がん剤治療を受ける患者さん(ご家族)で日常生活などに不安がある方がカフェにおいでになるとよいと思います。セカンドオピニオンではありませんので、紹介状などは不要です。一方で今受けている治療内容の批判的コメントは一切しませんので主治医の先生はご安心ください。話を聴いて、私がつぶやくことでより良い医療従事者との関係を作ることもミッションの一つです。「がんであっても、平静の心で」過ごせるよう寄り添っていきたくと思っています。



カフェ料金 1人300円

時間 30分

問合せ先

呼吸器・臨床腫瘍学
電話：0853-20-2576
FAX：0853-20-2580
メール：ganpro@med.shimane-u.ac.jp

開催日程	開催時間
H27 6月21日(日)	13:00 ～ 16:00
7月26日(日)	
8月23日(日)	
9月27日(日)	
10月25日(日)	
11月15日(日)	
12月27日(日)	
H28 1月17日(日)	
2月21日(日)	





島大病院ニュース
2015年6月

お知らせ



救急患者搬送時のプレホスピタルにおける ハンズフリー「音声認識記録システム」

なかむら もりひこ
産学連携センター地域医学共同研究部門 教授 中村 守彦

産学連携センターは地域医療の質向上を目指して、医学部(附属病院)と地域企業との共同研究を進めています。この度、音声認識技術を活用して救急医療を支援する新しいシステムをテックシロシステム(三原市)、山陰制御(安来市)と確立しました。

救急救命士の業務は、患者処置記録や搬送先医療機関への連絡、指示医師との会話など多岐に渡ります。救急車内でゴム手袋を装着している救急救命士が、処置内容等の搬送記録を正確に書き残すのは至難の業です。開発した「音声認識記録システム」は、煩わしい端末操作を必要とせず、ハンズフリーおよびアイズフリー対応により、患者処置に専念できます。また、本システムはコールバック機能を備え、音声文字化の確認や薬剤投与の時間管理などが可能になります。但し、サイレンを鳴らす救急車内で、発話(記録)者の音声だけを正確に拾うのは極めて困難です。そこで、音声認識において技術提携しているアドバンスト・メディア(東京)が最近開発した高指向性マイク(WT01)に着目し、出雲市消防本部との連携により「音声認識記録システム」が喧騒下で機能することを実証しました。処置記録がデータ化され、搬送先の医師へリアルタイムに伝わり、それによって医師から適正な指示が得られ、搬送先医療機関も的確な受入準備ができ、これにより救命率の向上が期待できます。

尚、音声文字化手段による救急医療情報通信ネットワーク(救急隊員、搬送先病院の指示・指導医師および消防指令本部)については、特許申請済み(特開2013-152613)です。



問合せ先 産学連携センター
地域医療共同研究部門 TEL:0853-20-2916

お知らせ
島大病院ニュース

平成27年6月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース
2015年6月

お知らせ

非常食を持とう！



ひらい じゅんこ
栄養治療室 室長 平井 順子

神奈川県箱根山では、火山性地震が発生するなど活発な火山活動が続いているニュースが連日放送されていますが、みなさんは、地震などの自然災害が起こった場合に食事はどうしようか考えたことがありますか？平成23年3月11日の東日本大震災以降、防災への意識も高まり、防災グッズなども簡単に手に入るようになりました。

災害時は、行政機関による救援活動や支援物資が届くまで、地域のみなさんと助け合うことも大切ですが、その前に、「自助」、自分を守ることが大切です。

ラジオ、懐中電灯、トイレ袋など災害時に必要なものはたくさんありますが、まずは、自分を守るために、机の引き出し、更衣室のロッカーなど病院の身近なところに1回分の非常食を準備してみてもどうでしょうか。今回は、コンビニで用意できる非常食を考えてみました。

全国的な調査では、「自然災害に対する防災について、日頃から意識しているか」との問いに、4人に1人は意識をしていないと答えています。自分の身を守るのは自分です。「まさか」のために日頃から準備しておきましょう。患者さんを守るためには、まずは、自分自身が元気であることが必要です。

●飲料水は1人1日3リットル。
まずは500ml、1本から準備を。
水は必須です。

●賞味期限12ヶ月など長期保存のものを。
栄養調整食品や栄養機能食品など栄養を考えたものを選ぶのもよいです。

●自分が好きなものも。
1口食べて、疲れがほぐれ、頑張る気持ちが出てくるかも。

- 定期的な確認を
賞味期限を確認して古くならない。
- どんなふうにも置くか
水に濡れても大丈夫な袋に入れて。
- ロングライフ商品
賞味期限が長く、長期保存が可能な食品もあります。牛乳や豆腐なども開発されています。



●缶詰の賞味期限は製造から3年間、びん詰は製造から1年間です。
缶切りがなくても開けられるものを選んで。

当院では、非常食として、入院患者さん9回分(3日分)を備蓄品として確保しております。患者さんの食事として提供する場合がございます。ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

問合せ先 栄養治療室 TEL:0853-20-2074

